

第3節 学習への意欲と感動

【科目によって差はあるが、少ない科目では3分の1から5割弱の児童が学習の中であまり感動を感じない。学習への意欲（好き）については、さらに低くなっている。なお、学習から感動を感じている児童や学習の内容が好きな児童は、その教科を好きである割合が顕著に高くなる。】(図1-15、図1-16)

Q2

あなたのふだんの生活についておききます。

B. あなたは勉強していて、つぎのように感じるがありますか。
1)～8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

新しい学力観では、知識の量や問題を処理する能力だけでなく、態度・意欲・関心も学力の要素としている。学習基本調査では、児童が学習の中で感じる感動と意欲（好き）を調べている。

図1-15で、まず、学習の中で感じる感動からみると、「①生き物や自然」が80.0%（「よくある」「時々ある」の合計。以下同じ）と、もっとも感動する児童が多い。つづいて、「④国語の教科書の登場人物や書いてある内容（66.0%）」「②社会のしくみや歴史のできごと（64.5%）」とやや減り、ほぼ3分の2の児童が感動しているにとどまる。そ

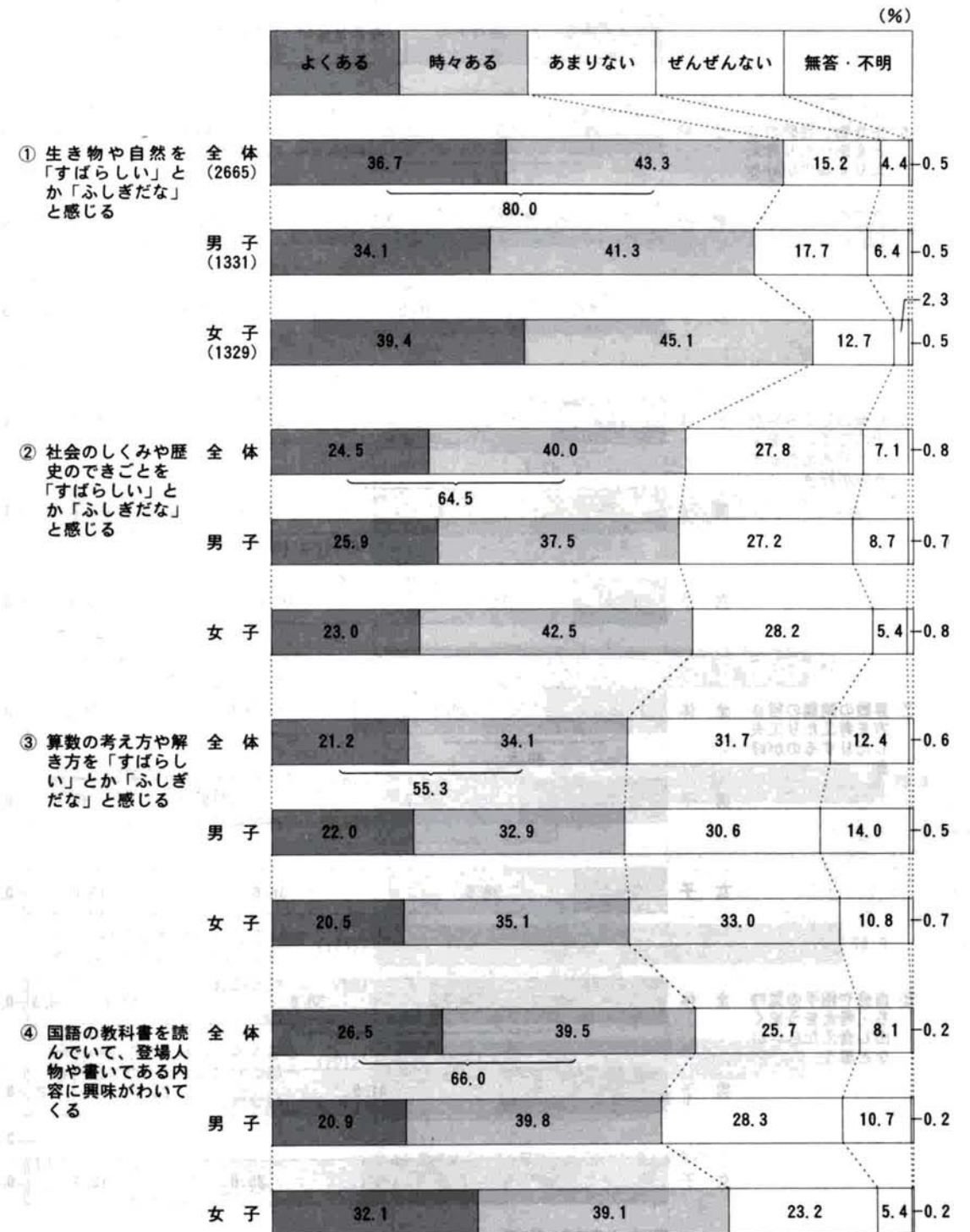
して「③算数の考え方や解き方（55.3%）」は6割を切っている。

意欲（好き）については、「⑧自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいな」が75.5%と高くなっているほかは、「⑤生き物や自然のことを調べたり考えたりする」が56.2%。そして他の2つの教科の関連では「⑦算数の問題の解き方を考えたり工夫したりする」が48.5%、「⑥社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりする」が42.7%と5割を切っている。残念なことだが、今回のデータでみると、学習の中で感動を覚えている児童はあまり多くはないし、意欲（好き）については、さらに少なくなっている。

性別には、女子のほうが多いのは、感動についての「④国語の教科書の登場人物や書いてある内容」および意欲（好き）についての「⑧自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいな」であり、国語の関連で女子のほうが感動・意欲とも高くなっている。また、男子のほうが多かったのは、「⑦算数の問題の解き方を考えたり工夫したりする」である。

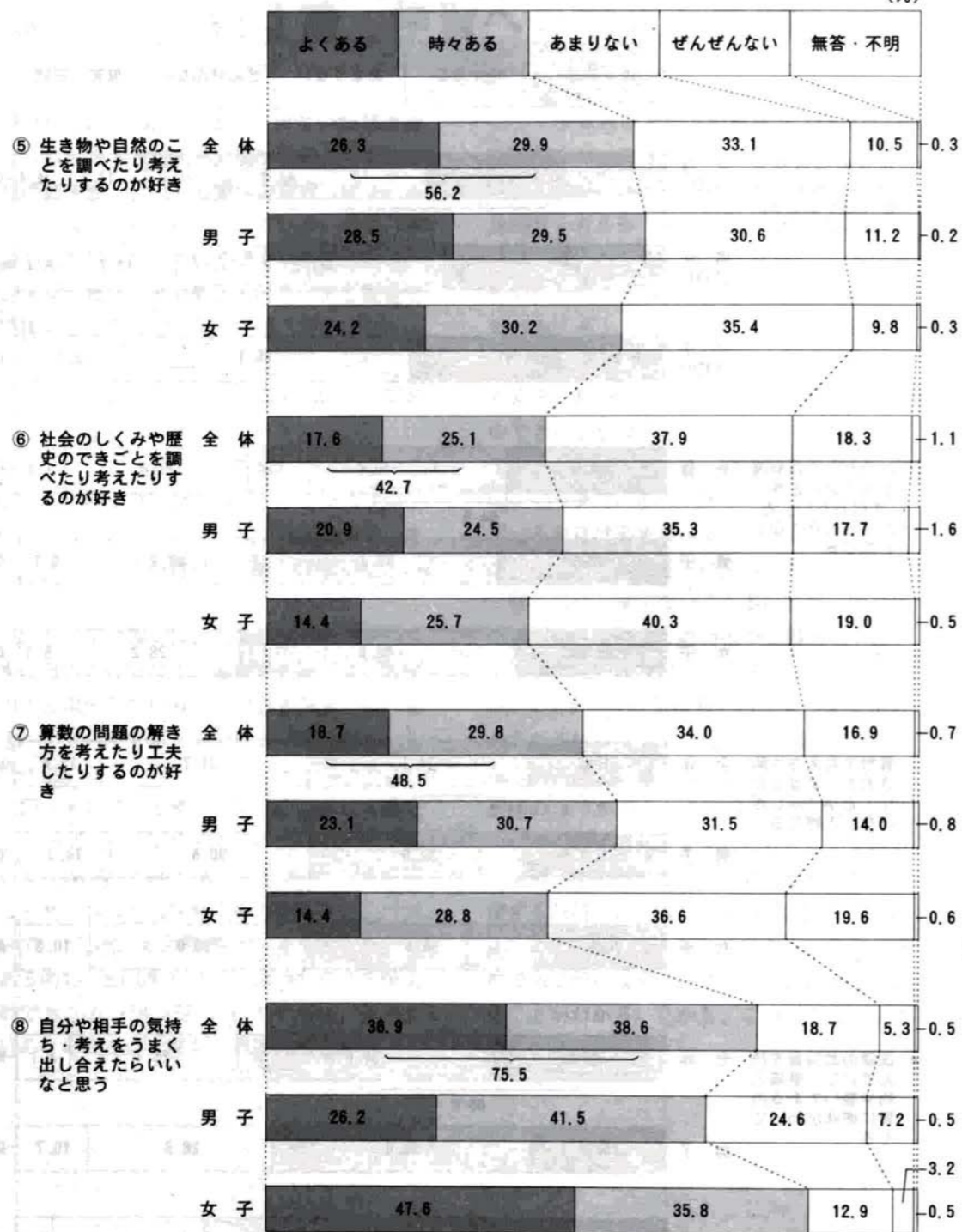
次に、学習への意欲・感動とそれぞれに関連する教科の好き嫌いをみると、図1-16のように、いずれの教科についても、意欲や感動のある児童はその教科のことが好きだということがわかる。しかも、この傾向はかなり顕著である。

図1-15 学習への意欲・感動



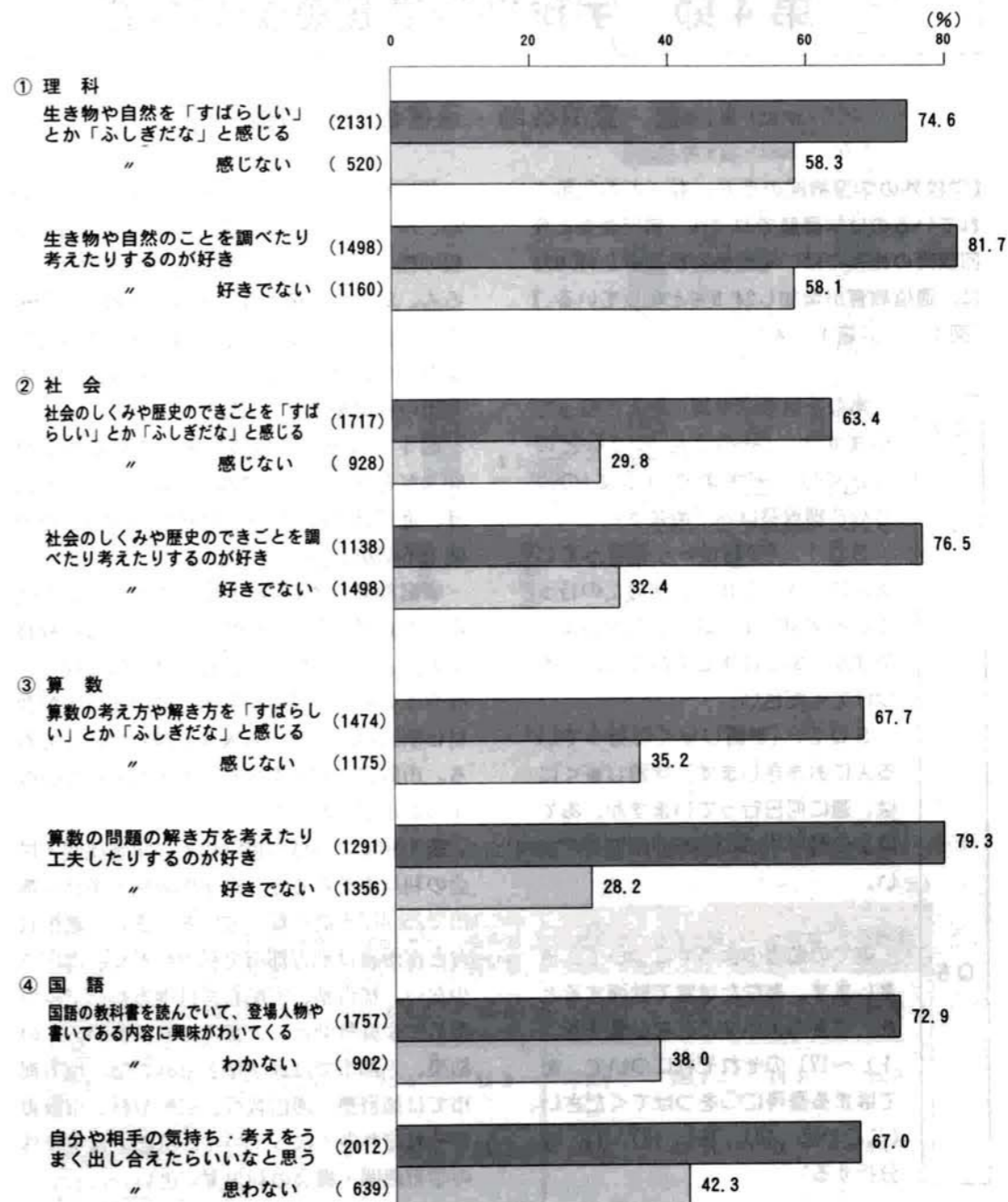
※次ページへつづく

(%)



注) () 内はサンプル数。

図1-16 学習への意欲・感動別にみた教科の好き嫌い



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。

注2) () 内はサンプル数。